

ニーチェを探る旅に出よう！！

2013年5月末 全国大手書店にて発売

『蛇とニーチェ』

著者：山本悦夫

発行／発売：創英社／三省堂書店

定価：本体1,700円（税別）

ISBN：978-4-88142-599-2

＜本書の構成＞

前書き

第一章 イラン北西高原タクシーの旅

第二章 南コーカサス観光バスの旅

第三章 蛇とニーチェ

付記 神話の「蛇と鳥」



あなたの「ニーチェ像」は間違っている!?

ニーチェが「ツアラトウストラかく語りき」を書いたのはなぜか。

ツアラトウストラが「鳥と蛇」を伴侶としたのはなぜか。

ニーチェの足跡を実際に踏破しながら、そこで見た真実の「ニーチェ」を披瀝する。

真のニーチェ理解へと誘う待望の書。

写真：ニーチェの岩と著者

（左記、本書より一部抜粋）



その時、思いがけないところで一つの岩が目飛び込んだ。三角形をした岩である。

私は、腕時計の高度計を見た。デジタル文字が示すのは一七五〇メートル。ほぼ六千フィートという計算になる。

この岩がニーチェの岩か……？（中略）

私も、同様の連想をしていた。ニーチェが永劫回帰思想のインスピレーションを得た岩は「そそり立つ巨大な岩」に違いないと思いついていた。

畢竟、私は見逃していたのである。岩に関する、ニーチェの記述で重要なのは「巨大さ」ではなく、「ピラミッド型」という形状の方なのだ。つまり、ピラミッド型であることが、そがニーチェの語りたかったことであり、私たちが読み解くための糸口だったのである。

改めて見てみよう。ニーチェは次のように記述している。